

1. 京都府 2. 和歌山県 3. 滋賀県 4. 奈良県

1. 人口密度は比較的高いものの、人口増減率は0パーセント付近で安定している。
2. 人口密度に比例して年少人口が増加しており、高齢化率は全国平均より低い。
3. 人口増加が続いており、高齢化率は全国平均である25.1パーセントを下回っている。
4. 人口減少が進んでおり、高齢化率が全国平均である25.1パーセントを上回っている。

1. 自動車産業の拠点が集積しているため、欧米からのビジネス目的の宿泊客が過半数を占める。
2. 自然景観の保護を優先するため、外国人の宿泊施設利用を厳しく制限している。
3. 伝統文化への関心が高いアメリカ合衆国など、欧米からの宿泊客が他県より多い傾向にある。
4. アジア近隣諸国からの格安航空会社（LCC）利用客が、安価な日用品の大量購入を目的に訪れる。

1. 小笠原気団から吹き出す南東の季節風が、日本海側の高い山地に遮られて湿った空気をもたらすため
2. 冬の乾燥した季節風が日本海側でフェーン現象を引き起こし、一時的に大量の雨を降らせるため
3. 太平洋側から吹く季節風が、中国山地を越えて近畿北部に湿った風として流れ込むため
4. シベリア高気圧から吹き出す北西の季節風が、日本海を渡る際に水分を蓄え、山地にあたって雪を降らせるため

1. 黒潮（日本海流）と中国山地 2. 親潮（千島海流）と紀伊山地 3. 対馬海流と中国山地 4. 黒潮（日本海流）と紀伊山地

1. 人口が集中しており、住民や周辺地域からの来訪者による購買力が大きい
ため

2. 大規模な港湾施設が整備されており、海外との原材料の輸出入が多い
ため

3. 大規模な工場が集積しており、製品の製造と出荷が盛んに行われている
ため

4. 広大な平野を利用した近郊農業が発達し、農産物の販売が盛んである
ため

1. 土壌汚染による農作物への影響を抑えるため、化学肥料や農薬の使用を全面的に禁止した。
2. 酸性雨による森林被害を防ぐため、周辺の工場に対して硫酸酸化物の排出規制を強化した。
3. 地球温暖化を抑制するため、二酸化炭素の排出量を削減するための森林保護を義務づけた。
4. 赤潮が発生する原因となる富栄養化を防ぐため、リンを含む合成洗剤の使用禁止などを定めた。

1. 日本で最も流域面積が広く、広大な関東平野の農業用水を確保するために大規模な分水嶺が形成されている。
2. 九州地方を横断する日本有数の急流河川であり、古くから「筑紫次郎」と呼ばれ激しい洪水を引き起こしてきた。
3. 日本で最も長い河川であり、上流部の雪解け水を利用した発電や米作りが流域の主な産業となっている。
4. 水源である琵琶湖が天然のダムのような役割を果たしており、下流域への流量調節や水利用を安定させている。

1. 府内の住宅地開発が進み、周辺の都市へ働きに出る現役世代の居住者が急増したため

2. 工場の地方移転により、府内の労働者が隣接する県へ毎日通勤するようになったため

3. 大都市圏の中心地として多くの企業や学校が集まり、近隣府県から多くの人々が移動してくるため

4. 広大な農地での作業に従事するため、季節ごとに周辺地域から多くの労働者が雇い入れられるため

1. 日当たりが良く、水はけの優れた沿岸部などの山の斜面を利用している

2. 冷涼な気候を好み、昼夜の温度差が激しい標高の高い火山灰土の高原を利用している

3. 稲作が困難なほど降水量が少ないため、灌漑設備を整えた広大な平野を利用している

4. 冬の寒さが厳しく、病害虫の発生を抑えられる降雪量の多い地域を利用している

1. 宿泊者数の実数は増加しているものの、増加率で見ると近畿地方の他府県と比較して最も低い水準にある。
2. 五年間で宿泊者数は二倍を超えており、二十三年を基準とした場合の増加率は百五十パーセントを上回っている。
3. 二十三年と比較して宿泊者数は減少に転じており、観光産業が衰退していることを示している。
4. 宿泊者数は微増にとどまっており、二十三年と比較した増加率は五十パーセント未満である。

1. 和歌山県 2. 兵庫県 3. 奈良県 4. 滋賀県